

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム 心
日付	平成19年3月31日 特定非営利活動法人 ライフサポート
評価機関名	
評価調査員	在宅介護経験15年
評価調査員	在宅介護経験12年
自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など) 『心』という名称のグループホームが、丁度1年前に新見市に誕生した。心という単語は、「人間」という言葉と共に身近に感じると同時に大変奥深い意味があり、この一字がこのホームの理念を表すのかも知れない。認知症ケアの基本として、「認知症になってしまった方と周辺の人との“心の交流”と“同じ心の目線”でのコミュニケーション」をライフサポートは掲げている。『心』は、ご利用者一人ひとりのその人らしさを大切に生き生きと地域の中に溶け込んで暮らすことを支援します。(ホームの理念)と『安心、信頼、満足のあるサービス提供』(法人の理念)が、利用者一家族一職員一地域の中に根付いていく姿を近い将来に一つの形として見つめられるよう管理者や職員が努力している。このグループホームを訪問して地域密着型サービス事業者と共に一心協力していこうとの念を強くした。 ホームが自らの業務を自主的に見つめる自己評価と第三者の目でホームの実体を確認する外部評価が、ホームのケアの質とサービスの改善に相乗効果を生み出すようにしていかなければならないと思う。今回のホームの自己評価は20項目の問題点や課題を具体的に表出してきた。これらを更に具体的に且つ客観的な目標や改善方法を明確にしていこうと、これからのサービス評価の目指すシステムの第一歩が実現していけると意を強くした。改善計画を立案して業務改善に結びつけていってほしい。 比較的近い地域から来ている利用者が多く、ホームの理念や職員の質の向上のための手段としても地域の中に溶け込んでいき、運営推進会議や各種行事などを通じて地域への働きかけを積極的に進めていこうとする姿勢は、地域密着型サービスの定着に向けた目標の現れである。 特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした 現在の利用者の状態は、自立度も高いし、コミュニケーションも比較的取り易い。現在に人の2~3年後の状態を推察して、ケアはどのようになるかを考えた体制づくりの計画をしておく必要がある。その時こそ、このグループホームのケア体制と考えるべきと思う。 そのためにも、その人の精神的能力や身体的機能の評価方法や推移の記録方法の検討も必要と思う。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か ホームの理念は、管理者を中心とした職員全員で考えたので、職員の間では共有化されていると思う。 理念の中で、利用者の『その人らしさ』と『地域の中に溶け込んだ暮らし』を掲げている。その人らしさを自己実現してもらうためには、過去一現在一未来についての各人の情報収集とアセスメントが重要であろう。そして重要事項にもあるように、その第一歩として現在利用者の思っている希望や意志を実現してあげることにある。このことは良く理解しているので、職員で是非実行してもらいたい。 地域の中に溶け込むことは、法人全体として実現することでもあろうが、運営推進会議やボランティアの来訪や利用者自身の外出の機会をとらえ、一つひとつ積み重ねていこうとしている。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 広大な敷地に法人の運営する特別養護老人ホームは各ユニットケアと個室が平屋建てで点在している。デイサービスや在宅支援事業及びグループホームが同じようにコーディネートされて独立家屋になっており、全体として1年前に移転建設された。 グループホームの中も、広々とした共有空間があり、各居室にもトイレと洗面があり、室内尾広く、ここは利用者が自由に部屋づくりをして、個人の生活がその人らしい暮らしにすることが可能である。外部には菜園もあり、野菜が植えてあり、日常の汁物の具ぐらいは利用できそうである。芋掘りは楽しんだそうだ。 敷地内でも散歩できるが、周辺も田園地帯で散歩を楽しめ、地域の人とも親しみが持てそうである。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 食事は楽しく話しながら食べる意欲を引き出そうとしているが、このホームでも「食事は黙ってするものだ」と思っている人が居ると改善を考えている。他のホームで食事をしながら利用者に問いかけた事があった。「昔、あなたのお父さんは食事の時どんな風に過ごしていましたか?」「私のお父さんは、ご飯は黙って食べるもんだと言うんで、弟と一緒に食べる自分の部屋に持って行って別に食べていると、お父さんが来て、何故一緒に食べないんだと呼びに来る。やっぱり一緒に食べないと淋しかったのかなあ」と言っていた人がいた。何かその時のお父さんの気持ちが分かるような気がして、少しお父さんの心境について話合った事があった。皆から色々な意見が出たことを思い出した。こんな問題を解決していくには、皆でご飯を食べる時はどうしたら良いかを話し合ってみたら良いと思う。皆、昔の習慣があるので、新しい習慣を皆で生み出す事も必要になるかも知れない。 このようなことを利用者で話し合う事も、利用者の希望や思いを引き出す大きなきっかけ作りにもなるのではないかなと思う。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 1年前、この法人全体が新しく立て替えた時、地域の人に10日間見学の日を設定した。1,400人の応募があり、多くの方が来訪したそうで、その感心の深さを感じた。そして特養ホームにあるホールは幼稚園児やボランティアの発表会や公演もあるが、地域の人々に開放していて、地域に密着した施設としての意志をはっきり打ち出している。 グループホームの法人の一員としての活動や行事への参加となろうが、ホーム独自の行事や利用者の外出など家族と共に実行して、近隣の方々や学生、ボランティアの人との交流、グループホーム同士の交流も深めていってほしい、この地域の認知症ケアのリーダーとしての存在になってもらえることを期待している。		